

第1節 市の概況

1 位置と地勢

本市は、山口県の東南部、周南工業地帯の東部に位置しており、市の東側に柳井市、田布施町、北側に周南市、岩国市、西側では下松市に隣接しています。

市域の北西部を島田川、北東部を田布施川が貫流し、両河川を中心にまとまった平地が広がっています。両河川の上流部には良好な田園地域が広がるとともに、瀬戸内海沿岸や岩田駅周辺には市街地が形成されています。

本市は、瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれており、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸や象鼻ヶ岬など風光明媚な海岸部は瀬戸内海国立公園に、また、青々とした森の石城山を中心とした山間部は石城山県立自然公園として指定を受けています。

● 光市の位置



2 気候

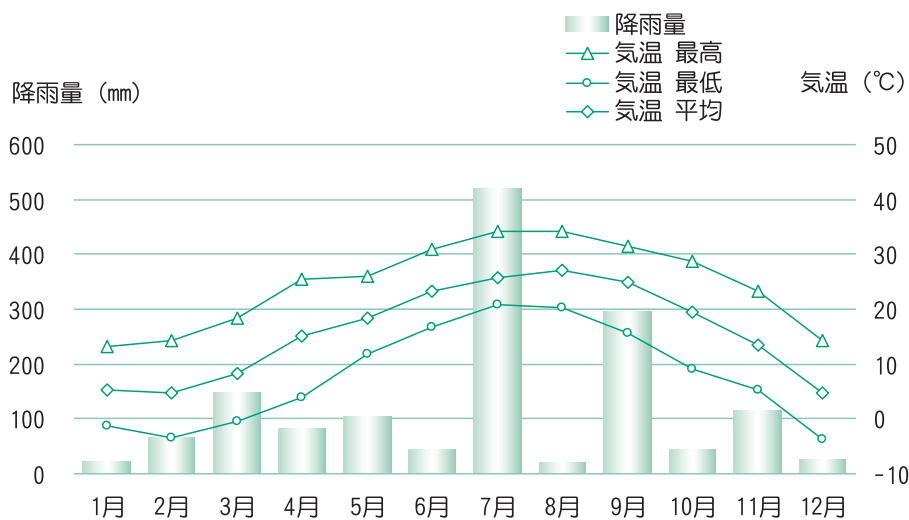
平成17年の気象状況をみると、年間を通じた平均気温は、15.8℃（最高 34.3℃、最低 -3.7℃）、年間降雨量は 1481.5 mmとなっており、気候は温暖で暮らしやすい瀬戸内式気候で、最適な住環境を備えた都市といえます。

● 近年の気温、湿度、降雨量

年次	気温（℃）			湿度（％）			降雨量（mm／年）		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	降雨日数	降雨量	月平均
平成 13 年	34	0	18.1	100	12	71.0	107 日	1411.5	117.6
平成 14 年	33	-3	15.9	100	16	75.7	100 日	1279.5	106.6
平成 15 年	33	-6	15.6	100	17	72.4	122 日	1635.5	136.3
平成 16 年	36	-5	16.7	96	11	67.4	109 日	2004.5	167.0
平成 17 年	34	-4	15.8	96	9	66.5	87 日	1481.5	123.5

※光地区消防本部

● 平成 17 年の月別気温、降雨量



※光地区消防本部

3 面積

東西方向は約 16km、南北方向は約 15km、総面積は約 92km²です。

4 人口動態

(1) 人口の動向

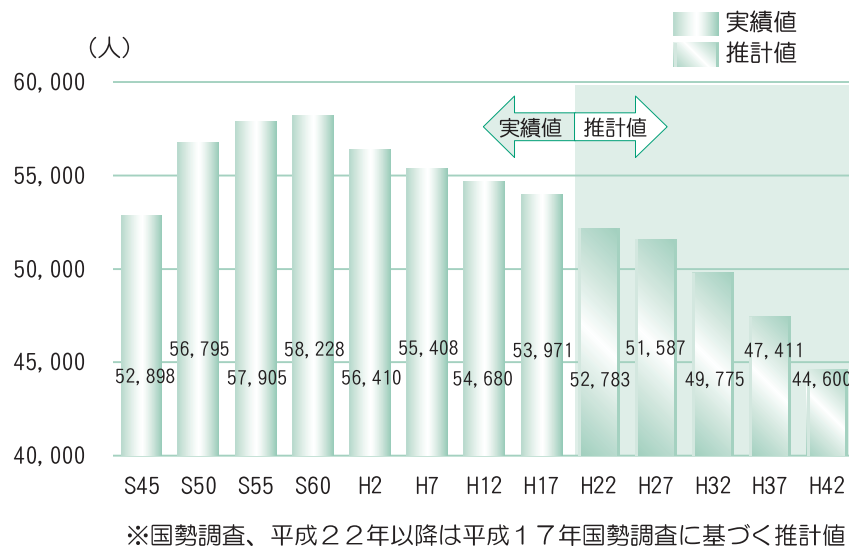
本市の総人口は、平成17年の国勢調査では、53,971 人で、昭和60年の 58,228 人をピークとして減少傾向が続いています。

一方、わが国の総人口は、平成17年の国勢調査によると、1億2,776.8万人で、平成12年に比べ83万人の増加となったものの、戦後最低の増加率となるとともに、平成16年の推計人口1億2,779万人を2万2千人下回り、わが国の人口は平成16年をピークとして減少に転じたものと推測されています。

また、5年間に人口が増加したのは15都府県に留まっており、山口県では、平成12年に1,528千人であった人口が、平成17年には1,493千人と減少に転じるとともに、県内の市町村では、山口市と下松市及び田布施町を除き、減少しています。

本市の状況は、県内の都市部では増減率が4番目に高いものの、平成12年に54,680人であったものが、平成17年には53,971人(増減率△1.3%)となっており、平成17年国勢調査に基づく推計(コーホート法)では、平成27年には51,587人、平成42年には44,600人に減少するものと推計されています。

● 光市の総人口の推移

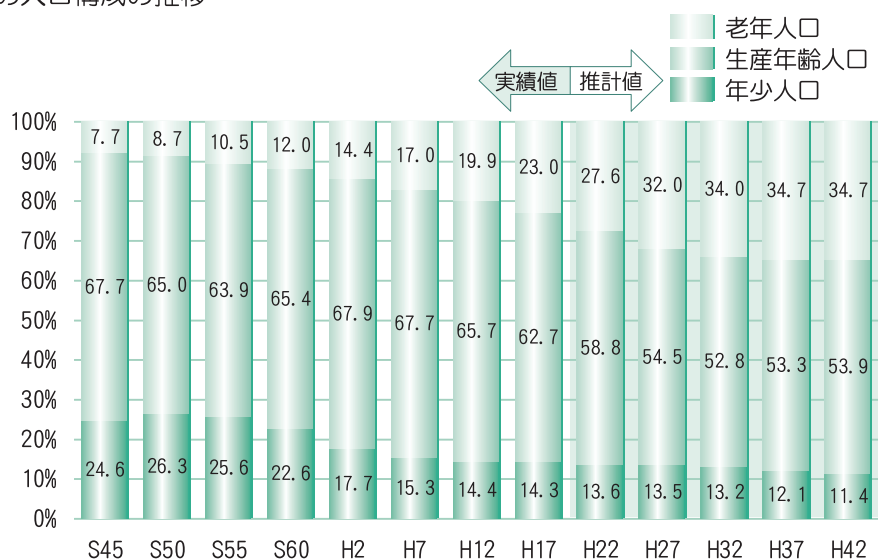


(2) 年齢別人口の構成

3区分別の年齢構成は、年少人口(0～14歳)と生産年齢人口(15～64歳)ともに減少傾向を示しているのに対して、老年人口(65歳以上)の比率は、昭和55年の10.5%から平成12年には19.9%と倍増し、平成17年には23.0%と上昇を続けており、コーホート法に基づく推計では、平成27年には32.0%と人口の3分の1を占めることが予測されています。

また、年少人口と老年人口の割合は平成27年には人口の約半分を占めることになり、生産年齢人口の負担が益々増加することが予測されています。

● 光市の人口構成の推移



※国勢調査、平成22年以降は平成17年国勢調査に基づく推計値

(3) 世帯数

わが国における世帯数は、平成12年に 4,678 万世帯であったものが、平成17年には 4,953 万世帯と 5.2%の増加となっていますが、国立社会保障・人口問題研究所によると、平成27年に 5,048 万世帯とピークを迎え、総人口から9年遅れて減少に転じ、平成37年には 4,964 万世帯になると推計されています。

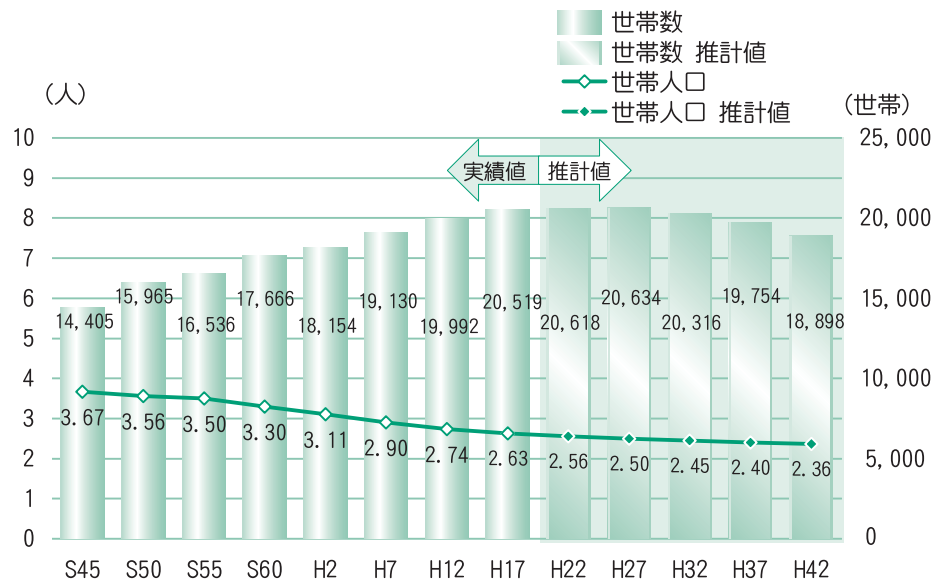
また、平均世帯人員は、平成12年の 2.67 人から平成17年には 2.58 人に減少しており、同研究所によると平成37年には 2.37 人へと縮小を続けますが、縮小の速度は次第に緩やかになると推測されています。

山口県では、平成12年に 58.2 万世帯(1世帯あたり 2.62 人)であったものが、平成17年の 59.1 万世帯(1世帯あたり 2.52 人)と 1.3%の増加となっていますが、同研究所によると、平成17年をピークに減少に転じ、平成37年には 53.9 万世帯となり、全国で最も早く減少に転じ、世帯人員は、平成12年の 2.56 人から平成37年には 2.28 人へと減少を続けると推計されています。

本市の世帯数は、平成17年に 20,519 世帯であったものが、平成27年には 20,634 世帯と微増した後、減少に転じ、平成42年には、18,898 世帯に減少することが予測されています。

また、1世帯あたりの人員は、平成12年に 2.74 人であったものが、平成17年には 2.63 人と減少を続けており、引き続き減少傾向を示し、平成27年には 2.50 人、平成42年には 2.36 人にまで減少し、核家族化がさらに進行するものと予測されます。

● 光市の世帯数の推移



※国勢調査、平成 22 年以降は平成 17 年国勢調査に基づく推計値

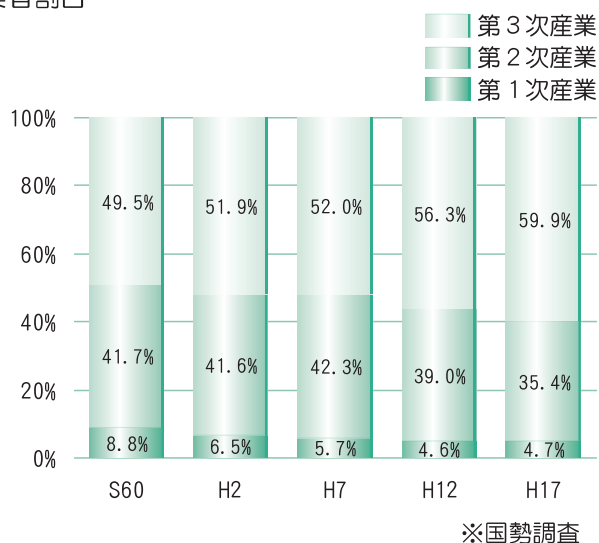
5 産業活動

本市の産業従業者数は、第1次・第2次産業従業者が減少し、第3次産業従業者が増加しています。

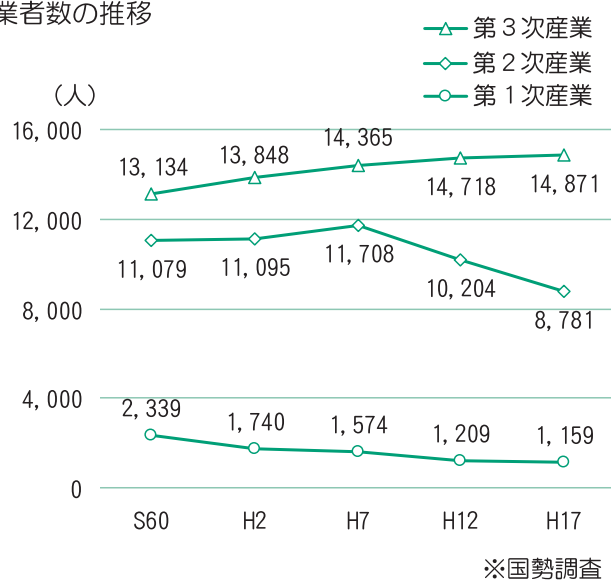
また、山口県内でも、第2次産業従業者の割合が高い状況にあり、臨海部の2大企業を中心とした第2次産業が基幹産業であること示しています。

しかしながら、設備の近代化等を背景として、第2次産業の雇用力が失われつつあり、第3次産業へのシフトが進んでいますが、近年では、その雇用力を第3次産業でカバーできていない状況となっています。

● 光市の産業就業者割合



● 光市の産業就業者数の推移

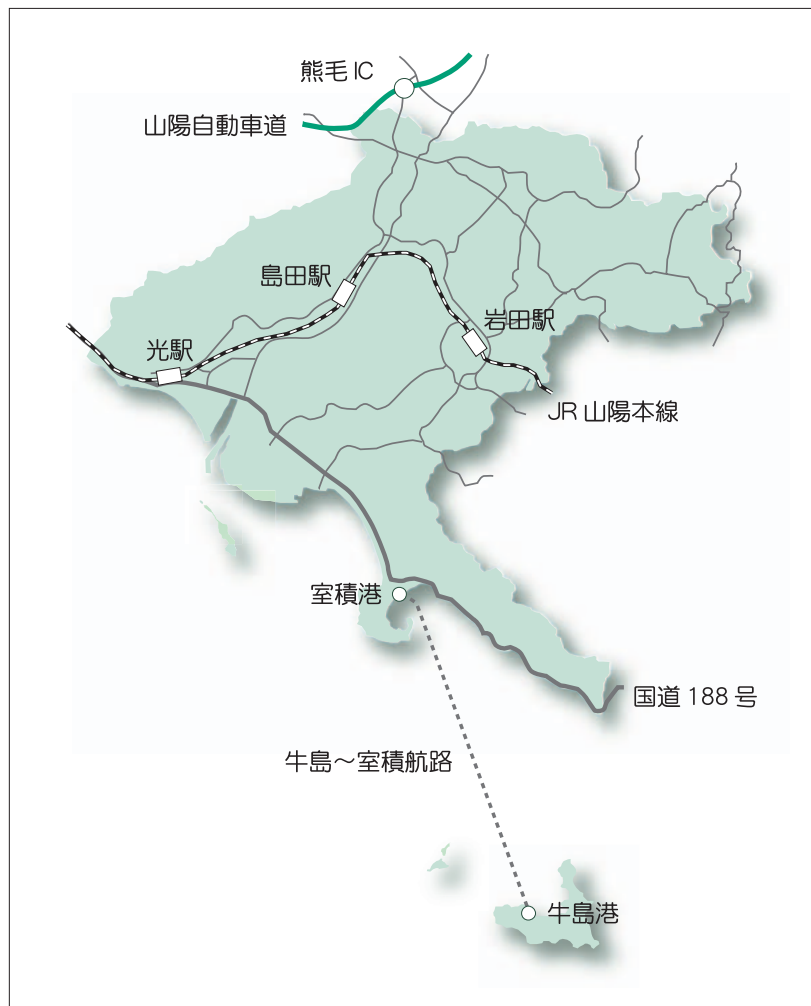


6 交通体系

本市における道路網の骨格は、市域を東西に走る国道188号が主要幹線道路となり、これが放射状に主要地方道及び一般県道が幹線道路として接続し、道路ネットワークを形成しています。市域に近接して山陽自動車道が通っており、熊毛ICは広域道路ネットワークの拠点となっています。

また、公共交通として、JR山陽本線が通っており、市内に、光駅・島田駅・岩田駅の3つの駅を有しています。

● 光市の交通体系



第2節 市民意識

本市のまちづくりに関する市民の意識や要望を把握するとともに、総合計画策定のための基礎資料とするため、平成17年8月に18歳以上の市民を対象とした「市民アンケート」と外から見た光市のイメージ等を把握するための「光市出身者アンケート」を実施しました。

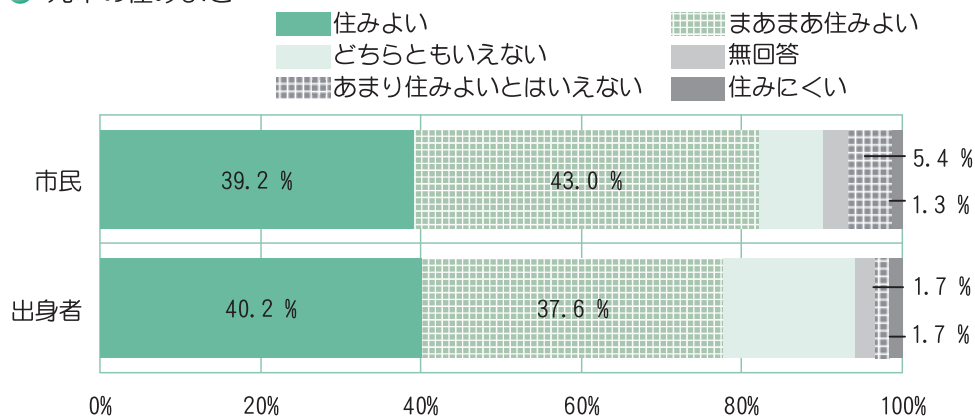
	配布数	有効配布数 A	回収数 B	回収率 B/A
市民アンケート①	3,000	2,993	1,146	38.3%
市民アンケート②	3,000	2,984	1,090	36.5%
出身者アンケート	258	255	117	45.9%

1 住みよさ・愛着感

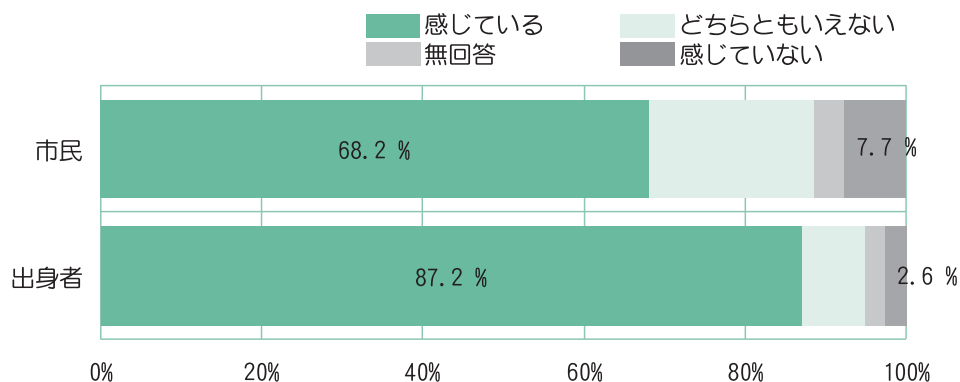
本市の住みよさについては、「住みよい」と「まあまあ住みよい」の回答を合わせると、市民が約82%、出身者が約78%と非常に高くなっています。

また、「自分のまち」としての愛着感を持っているのは、市民が約68%で、出身者では約87%もの高い比率を示しています。

● 光市の住みよさ



● 「自分のまち」としての愛着感



2 市政の評価

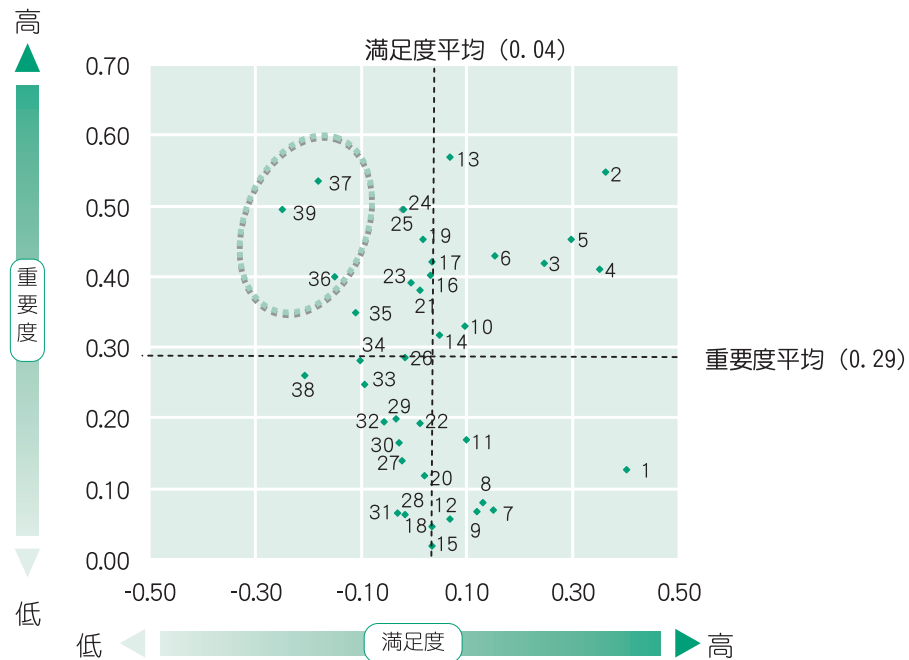
市民アンケートでは、「顧客満足度調査」の視点を取り入れ、各種施策に対する満足度と重要度に関する調査を実施しました。

満足度が高いものは、「幹線道路の整備」、「ごみの収集・処理対策の充実」など、重要度が高いものは、「地域医療対策の充実」、「地震・台風などの災害対策の充実」、「企業誘致・雇用の確保」などとなっています。

一方、満足度が低いもののうち、「地震・台風などの災害対策の充実」、「歩道の拡幅・段差の解消」、「企業誘致・雇用の確保」については、重要度が高くなっており、市民ニーズが高い施策であると考えられます。

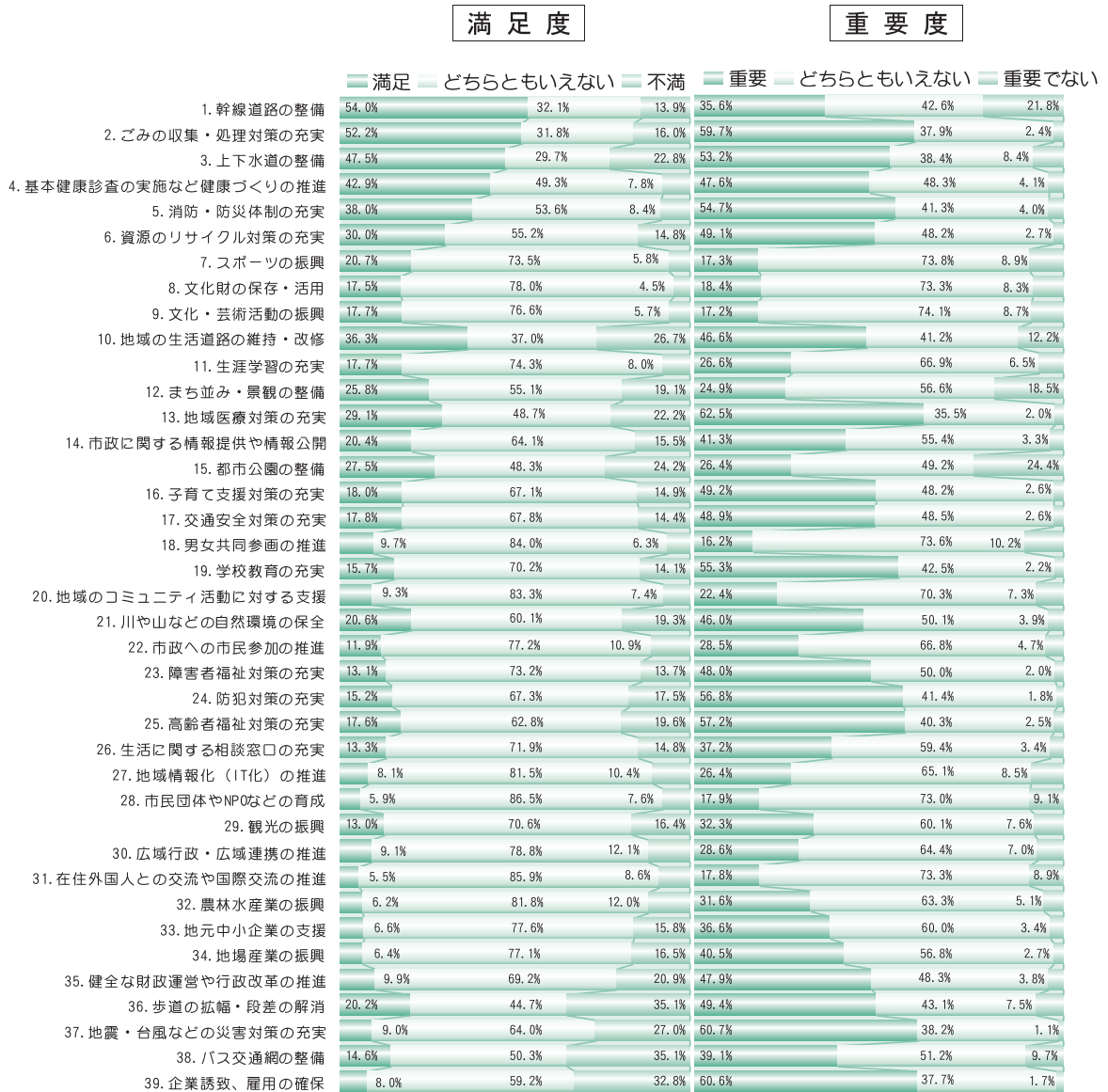
また、重要度が低いもののうち、「市民団体やNPOなどの育成」、「在住外国人との交流や国際交流の推進」、「男女共同参画の推進」などについては、満足度、重要度とも「どちらともいえない」という回答が全体の 70%以上を占めています。こうした結果は、これらの施策に対する関心が低いことも影響しているものと考えられます。

● 満足度と重要度の相関図



1. 幹線道路の整備	14. 市政に関する情報提供や情報公開	27. 地域情報化（IT化）の推進
2. ごみの収集・処理対策の充実	15. 都市公園の整備	28. 市民団体やNPOなどの育成
3. 上下水道の整備	16. 子育て支援対策の充実	29. 観光の振興
4. 基本健康診査の実施など健康づくりの推進	17. 交通安全対策の充実	30. 広域行政・広域連携の推進
5. 消防・防災体制の充実	18. 男女共同参画の推進	31. 在住外国人との交流や国際交流の推進
6. 資源のリサイクル対策の充実	19. 学校教育の充実	32. 農林水産業の振興
7. スポーツの振興	20. 地域のコミュニティ活動に対する支援	33. 地元中小企業の支援
8. 文化財の保存・活用	21. 川や山などの自然環境の保全	34. 地場産業の振興
9. 文化・芸術活動の振興	22. 市政への市民参加の推進	35. 健全な財政運営や行政改革の推進
10. 地域の生活道路の維持・改修	23. 障害者福祉対策の充実	36. 歩道の拡幅・段差の解消
11. 生涯学習の充実	24. 防犯対策の充実	37. 地震・台風などの災害対策の充実
12. まち並み・景観の整備	25. 高齢者福祉対策の充実	38. バス交通網の整備
13. 地域医療対策の充実	26. 生活に関する相談窓口の充実	39. 企業誘致・雇用の確保

● 満足度と重要度による市政の評価



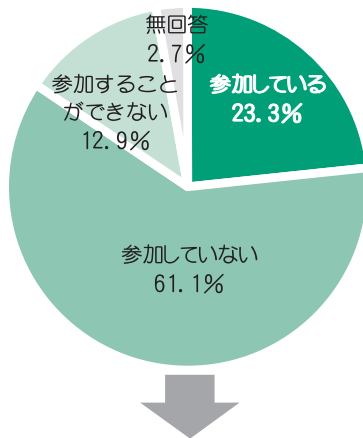
3 共創・協働のまちづくり

現在、まちづくり等の活動に参加している方は市民の約 23%となっており、参加している活動分野としては、「ごみの減量化・リサイクル」、「健康づくり活動」、「高齢者の支援」などが多くなっています。

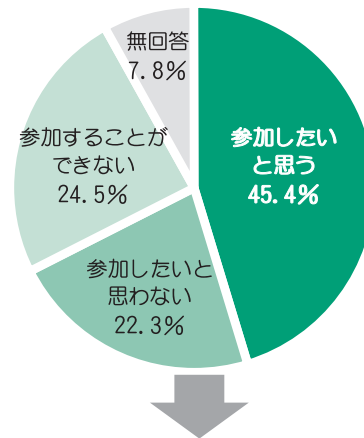
これからまちづくり活動に参加したいという方は、約 45%となっており、活動したい分野としては、現在活動している方が多い分野に加え、「自然保護や環境の保全」が多くなっています。

また、市民活動に取り組みやすくなるためには、「参加する時間の確保」、「いっしょに活動する仲間の確保」などが必要との回答が多くなっています。

●現在のまちづくり活動への参加状況



●これからのまちづくり活動への参加意向



●参加している分野（上位5位まで）

1	ごみの減量化・リサイクル	27.0%
2	健康づくり活動	22.5%
3	高齢者の支援	20.6%
4	スポーツ活動への支援	19.5%
5	まちの美化・緑化に関する分野	17.6%

●参加したい分野（上位5位まで）

1	自然保護や環境の保全	34.6%
2	ごみの減量化・リサイクル	33.3%
3	高齢者の支援	32.3%
4	健康づくり活動	28.8%
5	まちの美化・緑化に関する分野	24.0%

●市民活動に取り組みやすくなるために必要なこと（上位5位まで）

1	参加する時間の確保	40.1%
2	いっしょに活動する仲間の確保	33.9%
3	活動を一時的に体験できる場や参加する機会の確保	25.3%
4	活動を必要とする人や施設の情報	22.2%
5	NPO やボランティアの情報	12.3%